

# 自 然 科 学 部

## ▶ 部員からの活動報告



### 骨格標本の製作



完成した骨格標本の実際の写真(撮影日：令和6年1月)

6月中旬辺りから制作していたフクロモンガの骨格標本(平面)が昨年12月中旬に完成しました。

部位が不明な骨が複数ある、右足の前足部～後足部にかけての骨の大幅な消失、左手根骨(特に遠位手根骨列)の立体化等が問題点として挙げられます。



制作の様子(撮影日：令和5年7月)

フクロモンガの骨格標本制作

現在はネズミの立体骨格標本制作、テンの平面骨格標本制作の2手に別れて作業しています。

休日である12月に学校に登校し、3時間かけネズミ・テンの解剖を行ったのち濃度を薄めたアルカリ性の水溶液にて骨と肉とを乖離させました。

ネズミ・テンの骨格標本制作の様子(撮影日：令和6年2月下旬)



作業の分化  
ネズミの立  
体標本制作  
テンの平面  
標本制作

フクロモンガの骨格標本完成後～テンの解剖までのスパンでは北海道大学図書刊行会の本を参考に骨格から生物を推測する活動を行いました。

大型生物の頭蓋骨(撮影日：令和5年12月中旬)





# プラネタリウム制作

星座の映っている図にアルミホイルに張り合わせ、星の部分を画鋸やカッターなどで切り抜き、切り抜いたものに下から光を当てることで、天井に星座が浮かび上がらせる。

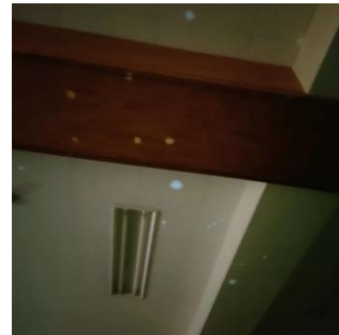


昨年11月に開始したプラネタリウム制作

部員の試行錯誤の末に12月18日に最初のプラネタリウムが完成した。

最初のプラネタリウムの制作後は、部員それぞれが作りたい季節の星座をピックアップして制作した。

他にもプラネタリウムを見えやすくするために椅子を積み上げて暗幕を作ったり、光を当てる量や場所を変えたりと日々工夫を重ねている。



3月に電池で動くプラネタリウム（写真左）を作成した。

制作中に何回かアクシデントが発生したが、無事に完成した。

しかし、この装置はボタンを押し続けないと光らない、光が弱く化学実験室の天井に全く光が届かない、と課題は山積みである。

星が天井に届く距離を調べて、肉眼でもはっきり見えるように暗幕を用意したり、場所を変えてみるなどの工夫が必要である。

